プロティスシリーズ
PROTICE

貯湯式　電気湯沸器

工事要領・取扱説明書

S B 型

Bタイプ
EW-N3B-SB(1)
EW-N4B-SB(1)
Cタイプ
EW-N3C-SB(1)

B T 型

Bタイプ
EW-N3B-BT(1)
EW-N4B-BT(1)
ET-N4B-BT(1)
Cタイプ
EW-N3C-BT(1)

このたびは、本製品を買い上げいただき、誠にありがとうございます。

本書を事前によくお読みになり、理解した上で設置・ご使用ください。

設置工事(試運転)後は必ず本書をご使用になる方にお渡しください。本書は、いつでもご覧になれるよう所定の場所に保管してください。

(本書に記載されている事項を守らずに発生した事故について、弊社は一切責任を負いません。)

株式会社 日本イトミック

ご使用の前に

安全にお使いいただくために・・・・ P.1
製品について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.3
製品の特長・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.4
製品仕様・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.5
EW-N3（壁掛型）・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.5
EW-N4（壁掛型）・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.6
ET-N4B-BT（置台型）・・・・・・・・・・・・・・P.7
給湯コントローラーの名称と働き・・・・・P.8

運転のしかた

運転時の注意事項・・・・・・・・・・・ P.9
SB 型 運転方法・・・・・・・・・・・・・ P.11
BT 型 運転方法・・・・・・・・・・・・・ P.12
出湯方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.13

お手入れ

お手入れの方法・・・・・・・・・・・・・ P.14
長期間使用しないときは・・・・・・・・ P.14
（排水の方法）
日常のお手入れ・・・・・・・・・・・・・・・・・P.15
保守点検と実施の目安・・・・・・・・・・P.15

お困りの時

故障と思われる前に・・・・・・・・・・・P.16
ブザーを止めるには・・・・・・・・・・・・・・・ P.16
アフターサービス・・・・・・・・・・・・・・P.18

仕様・工事説明

施工前の準備・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.19
施工前にご確認ください・・・・・・・・・・・ P.19
工事説明・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.21
湯沸器の取り付け・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.21
配管工事・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.23
電気工事・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.25
確認事項 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.26

安全にお使いいただくために

この度は日本イトミック製品をお買いあげいただきまして誠にありがとうございました。
安全にお使いいただくために取り扱いを誤った場合の危害・損傷の程度を下記に表示してあります。本書をよくお読みいただき、内容をご理解の上、末永くご使用ください 。

安全上のご注意

本書にはお客様への危害や財産への損害を未然に防ぎ、本製品を安全にお使いいただくために、お守りいただく事項を記載しています。設置の前に、必ず本書をお読みになり、内容をよく理解された上で設置してください。製品引き渡しの際は必ず本書をご使用になられる方にお渡しください。

警告表示の意味

本書では、取り扱いを誤った場合などの危険の程度を、次の2つのレベルに分類しています。

⚠ **警告**	この表示の欄は、『死亡または重傷などを負う可能性が想定される』内容です。
⚠ **注意**	この表示の欄は、『傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される』内容です。

△の記号は、注意（警告を含む）をうながす事項を示しています。
△の中に具体的な注意内容が描かれています。
（左図の場合は『高温注意』という意味です。）

⃠の記号は、してはいけない行為（禁止行為）を示しています。
⃠の中や近くに、具体的な禁止内容が描かれています。
（左図の場合は『分解禁止』という意味です。）

●の記号は、しなければならない行為（強制行為）を示しています。
●の中に、具体的な指示内容が描かれています。
（左図の場合は『電源プラグをコンセントから抜くこと』という指示です。）

重要事項：必ずお守りください

⚠警告	
	アース（D種接地）工事を確認してください。 アース工事がされないと故障や漏電発生時に感電するおそれがあります。
	電圧は定格電圧の±10%以内でお使いください。 火災の原因となります。
	必ず電源一次側に漏電ブレーカを取り付け、動作を確認してください。 万一の故障等による漏電発生時に感電、火災のおそれがあります。
	運転時、プラグはコンセントに確実に差し込んでください。 火災のおそれがあります。
	排水時は必ず本体の電源を切ってから行ってください。 感電のおそれがあります。
	絶対に改造はしないでください。 火災、感電、やけどやケガの原因となります。
	屋外に設置しないでください。 感電、故障の原因となります。
	本体近くにガス類や引火物を近づけたり保管しないでください。 発火のおそれがあります。
	濡れた手で電源の操作を行わないでください。 感電のおそれがあります。

安全にお使いいただくために

⚠警告

	湿気の多い場所や浴室には設置、使用しないでください。 水が掛かったり結露が生じる場所で使用すると故障、感電のおそれがあります。
	設置、メンテナンス時以外は本体蓋を開けないでください。 感電、やけどのおそれがあります。
	給湯中とその直後は高温になっていますので、配管部分、給湯蛇口、排水管に直接触れないでください。 やけどのおそれがあります。
	排水時には熱湯が出ることがありますので、お湯に触れないでください。 やけどのおそれがあります。

⚠注意

	湯沸器本体および配管に乗ったり体重を掛けたり物を載せたりしないでください。 落ちてケガをしたり、漏水、故障の原因となります。
	水道水以外は使用しないでください。 井戸水などを使用すると腐食などにより漏水するおそれがあります。
	水道水に添加物を混ぜないでください。 健康を害したり、漏電、漏水、故障の原因となります。
	EW シリーズ：本体は湯沸器の満水質量に耐えられる十分な強度を持つ壁面に必ず垂直に設置してください。 落下の原因となります。
	ET シリーズ：本体は湯沸器の満水質量に耐えられる十分な強度を持つ調理台などに必ず水平に設置してください。 故障、漏水の原因となります。
	ET シリーズ：固定金具は湯沸器の満水質量に耐えられる十分な強度を持つ壁面に必ず垂直に設置してください。 転倒の原因となります。
	給湯、給水接続配管はステンレスもしくは銅製の材質を使用してください。 漏水の原因となります。
	貯湯温度が 80℃未満の場合は、やかんなどで沸かしてからお飲みください。 健康を害するおそれがあります。
	BT 型：満水にしてから通電してください。 故障の原因となります。
	規定の給水圧力にてご使用ください。給水圧が高い場合は必ず減圧弁を取り付けてください。 誤動作、故障の原因となります。
	水の凍結が予想される所では凍結防止処置を施してください。 配管が破損してやけどをするおそれがあります。
	長期間使用しない場合は湯槽の水を抜いてください。 凍結して湯槽が破損したり、水質が悪化するおそれがあります。

シリーズのご紹介

壁掛型電気湯沸器 EWシリーズおよび置台型電気湯沸器 ETシリーズは、最高 99℃の沸かし上げを行う製品です。

EW-N3（図はEW-23N3B-SB）
グレイッシュなメタリック塗装が目を引く奥行 190mmの超薄型（取付寸法 199mm）。

EW-N4（図はEW-20N4B-BT）
ホワイトボディの壁掛型電気湯沸器のスタンダード。

ET-N4B（図はET-12N4B-BT）
調理台の上などに置いて使用する蛇口付きの置台型電気湯沸器。

		EW-N3	EW-N4	ET-N4B
給水、給湯制御		ステップ式温度、水位同時制御方式（SB型）もしくはボールタップ制御（BT型）		ボールタップ制御（BT型）のみ
操作部パネル種類		B / Cタイプ	Bタイプ	B タイプ
標準電源		単相 100V/ 単相 200V		
設定温度		約 99℃（工場出荷時に変更している場合は異なります）		
温度設定範囲	B/Cタイプ	約 40 ～ 99℃（1℃刻みで設定可能）		
給水・給湯接続口径		G1/2（15A）		
排水接続口径		G3/4（20A）		
一次側使用水温		40℃以下（凍結しないこと）		
使用雰囲気温度		0 ～ 40℃（凍結しないこと）		
設置場所		屋　内		
給水圧力（MPa）	SB型	0.1 ～ 0.3		---
	BT型	0.1 ～ 0.3		
貯湯量（リットル）	SB型	23 / 33 / 43	14 / 22 / 32 / 48 / 68	---
	BT型	20 / 30 / 40	12 / 20 / 30 / 45 / 65	

製品の特長

本製品には下記のような特長があります。運転のしかたにそれぞれの機能を生かした使用方法が記載されています。十分にお読みいただき、ご活用ください。

共通の特長

1 開放型で最高約 99℃のカルキが抜けたおいしいお湯を供給します。また、湯温を1℃刻みで設定できるため様々な用途に対応します。

2 ランプ・デジタル表示で、湯温や運転設定等の各種情報を簡単に確認することができます。

3 運転スイッチを押すだけで汎用的な使用パターンを設定した「おすすめプログラム」で運転スタート。変更も簡単に行えるため手間がかかりません。

4 夏休みなどの長期休暇時の運転停止設定も簡単です。休日出勤や残業など、通常の運転時間外でも再沸し上げスイッチを押すだけで設定を変更する必要はありません。

5 安全機能も充実。
空焚きや異常高温を検知して運転をストップする機能の他、運転スイッチを3秒以上押さないと運転停止にならない機能、いたずら防止のためのスイッチロック機能、湯水飛散・異物混入防止のための上蓋ネジ止めなど湯沸器を安全にお使いいただく工夫をしています。

6 SB型（ステップボイル方式）の特長

SB 型はマイコンと電磁弁でお湯の温度を常に約 90℃以上に保つように給水を制御して運転します。そのため、同程度の貯湯量の BT 型よりも断続して使えるお湯の量は多くなります。（但し、出湯能力以上の湯を出すと湯切れを起こしますので、お湯の使いすぎにはご注意ください。）

湯を使うと水位が下がりますが、その後適温を保ちながら給水と加熱を繰り返して満水にします。

7 BT型（ボールタップ方式）の特長

BT 型はお湯を使用して水位が減った分を湯温に関係なく機械的に給水します。そのため、連続出湯した場合にはお湯の温度が下がることがありますので、少量ずつ湯を使用する場合に適しています。

8 タイプ別の特長

型番に「C」がつくタイプ ･･･ 自動給排水機能
設定日の運転開始 2時間前に湯槽内の水を自動的に排出して新しい水を運転開始時間までに給水する衛生性を高めた機能。

EW-N3（壁掛型）

種類・機能については→ P.8 参照

※ EW-N3型の電源接続は端子受けです。（電源コード付はオプション）

寸法表

（単位mm）

	EW-23N3（B/C）-SB（1） EW-20N3（B/C）-BT（1）	EW-33N3（B/C）-SB（1） EW-30N3（B/C）-BT（1）	EW-43N3（B/C）-SB（1） EW-40N3（B/C）-BT（1）
H	560	693	826
A	498	631	764
B	330	463	596

	EW-23N3（B/C）-SB（1） EW-33N3（B/C）-SB（1） EW-43N3（B/C）-SB（1）	EW-20N3B-BT（1） EW-30N3B-BT（1） EW-40N3B-BT（1）	EW-20N3C-BT（1） EW-30N3C-BT（1） EW-40N3C-BT（1）
C	97	195	159

仕様表

標準電源……単相 100V／200V

SB（ステップボイル）型						BT（ボールタップ）型					
項目／型番※1	貯湯量（リットル）	※1 標準ヒーター容量（kW）	※2 給湯予測値（沸き上がり温度99℃の場合）①沸き上がり時間（分）	※2 給湯予測値（沸き上がり温度99℃の場合）②飲用専用時連続給湯予測値	満水質量（kg）	項目／型番※1	貯湯量（リットル）	※1 標準ヒーター容量（kW）	※2 給湯予測値（沸き上がり温度99℃の場合）①沸き上がり時間（分）	※2 給湯予測値（沸き上がり温度99℃の場合）②飲用専用時連続給湯予測値	満水質量（kg）
EW-23N3(B/C)-SB(1)	23	1.5／2.0	90／68	193 杯	36	EW-20N3(B/C)-BT(1)	20	1.5／2.0	79／59	168 杯	33
EW-33N3(B/C)-SB(1)	33	1.5／3.0	129／65	277 杯	52	EW-30N3(B/C)-BT(1)	30	1.5／3.0	118／59	252 杯	49
EW-43N3(B/C)-SB(1)	43	1.5／3.0	168／84	361 杯	66	EW-40N3(B/C)-BT(1)	40	1.5／3.0	157／79	336 杯	63

※1：左は単相100V、右は単相200V のヒーター容量です。
※2：能力以上の給湯は行えません。この値を目安としてお使いください。
①沸き上がり時間：左は単相100V、右は単相200V。（水温15℃で算出）
②飲用専用時連続給湯予測値：使用湯温を 90℃とし、100cc／杯で算出。（食器洗いなど、混合水栓を同時に使用した場合には数値が異なります。）

EW-N4（壁掛型）

寸法表

（単位mm）

	EW-14N4B-SB(1) EW-12N4B-BT(1)	EW-22N4B-SB(1) EW-20N4B-BT(1)	EW-32N4B-SB(1) EW-30N4B-BT(1)	EW-48N4B-SB(1) EW-45N4B-BT(1)	EW-68N4B-SB(1) EW-65N4B-BT(1)
W	360	360	360	450	450
D	250	250	250	320	320
H	480	599	747	694	867
A	412	532	680	610	784
B	156	216	290	255	342
E	280	280	280	320	320
F	130	130	130	150	150

仕様表

標準電源……単相 100V／200V

SB（ステップボイル）型						BT（ボールタップ）型					
項目／型番	貯湯量（リットル）	※1 標準ヒーター容量(kW)	※2 給湯予測値（沸き上がり温度99℃の場合） ①沸き上がり時間（分）	②飲用専用時連続給湯予測値	満水質量(kg)	項目／型番	貯湯量（リットル）	※1 標準ヒーター容量(kW)	※2 給湯予測値（沸き上がり温度99℃の場合） ①沸き上がり時間（分）	②飲用専用時連続給湯予測値	満水質量(kg)
EW-14N4B-SB(1)	14	0.75／0.75	110／110	105 杯	22	EW-12N4B-BT(1)	12	0.75／0.75	94／94	100 杯	20
EW-22N4B-SB(1)	22	1.5／1.5	86／86	185 杯	31	EW-20N4B-BT(1)	20	1.5／1.5	79／79	168 杯	29
EW-32N4B-SB(1)	32	1.5／2.0	126／94	269 杯	48	EW-30N4B-BT(1)	30	1.5／2.0	118／88	252 杯	46
EW-48N4B-SB(1)	48	1.5／3.0	188／94	403 杯	67	EW-45N4B-BT(1)	45	1.5／3.0	176／88	378 杯	64
EW-68N4B-SB(1)	68	1.5／4.0	266／100	571 杯	91	EW-65N4B-BT(1)	65	1.5／4.0	254／96	546 杯	88

※1：左は単相100V、右は単相200V のヒーター容量です。
※2：能力以上の給湯は行えません。この値を目安としてお使いください。
①沸き上がり時間：左は単相100V、右は単相200V。（水温15℃で算出）
②飲用専用時連続給湯予測値：使用湯温を 90℃とし、100cc／杯で算出。（食器洗いなど、混合水栓を同時に使用した場合には数値が異なります。）

ET-N4B（置台型）

【ET-N4B-BTの蛇口の取付位置と型番について】
ET-N4B-BTの標準蛇口位置は左ですが、工場出荷時にオプション仕様にて変更した場合は本書での図とは異なりますので、ご了承ください。
なお、取付位置によって以下のアルファベットが型番に付きますが、本書では省略しています。

蛇口位置正面・・・・ JF
蛇口位置右・・・・・・ JR
蛇口位置左・・・・・・ JL

寸法表

（単位mm）

	ET-12N4B-BT（1）	ET-20N4B-BT（1）	ET-30N4B-BT（1）	ET-45N4B-BT（1）	ET-65N4B-BT（1）
W	360	360	360	450	450
D	250	250	250	320	320
H	480	599	747	694	867
蛇口	自在水栓× 1				

仕様表

標準電源……単相 100V ／ 200V

BT（ボールタップ）型					
項目 ＼ 型番	貯湯量（リットル）	※1 標準ヒーター容量(kW)	※2 給湯予測値（沸き上がり温度99℃の場合）		満水質量（kg）
			①沸き上がり時間（分）	②飲用専用時連続給湯予測値	
ET-12N4B-BT（1）	12	0.75／0.75	94／94	100 杯	20
ET-20N4B-BT（1）	20	1.5／1.5	79／79	168 杯	29
ET-30N4B-BT（1）	30	1.5／2.0	118／88	252 杯	46
ET-45N4B-BT（1）	45	1.5／3.0	176／88	378 杯	64
ET-65N4B-BT（1）	65	1.5／4.0	254／96	546 杯	88

※1：左は単相100V、右は単相200V のヒーター容量です。
※2：能力以上の給湯は行えません。この値を目安としてお使いください。
①沸き上がり時間：給水温度 15℃で算出。左は単相100V、右は単相200V。
②飲用専用時連続給湯予測値：使用湯温を 90℃とし、100cc／杯で算出。
（食器洗いなど、混合水栓を同時に使用した場合には数値が異なります。）

■ 給湯コントローラーの名称と働き

操作部

表示部

※当冊子では基本的な使用方法のみをご紹介しております。詳しい機能および操作方法は、別途付属の給湯コントローラー取扱説明書をご参照ください。

運転時の注意事項

⚠警告

❗	**運転時、プラグはコンセントに確実に差し込んでください。** 火災のおそれがあります。
	排水時は必ず本体の電源を切ってから行ってください。 感電のおそれがあります。
🚫	**本体近くにガス類や引火物を近づけたり保管しないでください。** 発火のおそれがあります。
	濡れた手で電源の操作を行わないでください。 感電、やけどのおそれがあります。
🚫	**設置、メンテナンス時以外は本体蓋を開けないでください。** 感電、やけどのおそれがあります。
	給湯中とその直後は高温になっていますので、配管部分、給湯蛇口、排水管に直接触れないでください。 やけどのおそれがあります。
	排水時には熱湯が出ることがありますので、お湯に触れないでください。 やけどのおそれがあります。

⚠注意

🚫	**湯沸器本体および配管に乗ったり体重を掛けたり物を載せたりしないでください。** 落ちてケガをしたり、漏水、故障の原因となります。
	水道水以外は使用しないでください。 井戸水などを使用すると腐食などにより漏水するおそれがあります。
	水道水に添加物を混ぜないでください。 健康を害したり、漏電、漏水、故障の原因となります。
❗	**EW シリーズ：本体は湯沸器の満水質量に耐えられる十分な強度を持つ壁面に必ず垂直に設置してください。** 落下の原因となります。
	ET シリーズ：本体は湯沸器の満水質量に耐えられる十分な強度を持つ調理台などに必ず水平に設置してください。 故障、漏水の原因となります。
	ET シリーズ：固定金具は湯沸器の満水質量に耐えられる十分な強度を持つ壁面に必ず垂直に設置してください。 転倒の原因となります。
	給湯、給水接続配管はステンレスもしくは銅製の材質を使用してください。 漏水の原因となります。
	貯湯温度が 80℃未満の場合は、やかんなどで沸かしてからお飲みください。 健康を害するおそれがあります。
	BT 型：満水にしてから通電してください。 故障の原因となります。
	規定の給水圧力にてご使用ください。 誤動作、故障の原因となります。
	長期間使用しない場合は湯槽の水を抜いてください。 凍結して湯槽が破損したり、水質が悪化するおそれがあります。

運転時の注意事項

ご使用前の準備と確認

ご使用の前に次の事をご確認ください。

チェックリスト

項　目	チェック内容	チェック
本体まわり	近くにガス類や引火物はありませんか？	□
	本体の上には物などを載せていませんか？	□

その他の注意事項

1 瞬間的にお湯を沸かすことができない貯湯式のため、運転開始から沸かし上げには時間がかかります。
また、出湯能力以上のお湯は一度に供給できません。（仕様表→ P.3 ～ 7 参照）
＜給湯を続けた場合＞
SB 型…一定水位までは適温を保ちますがその後安全水位ランプが点滅し、湯温が下がりはじめます。
BT 型…徐々に湯温が下がり、最後は水になります。

2 開放型のため給湯圧力は落差分だけです。通常の水道のような水圧はありません。

そのため、一般の混合水栓ではお湯と水を十分混合できません。
オプションの混合水栓『まぜまぜ』（型式：MZ-N3）シリーズをご使用ください。→ P.20 参照
また、『まぜまぜ』は湯沸器一台につき 1 つの取り付けとしてください。（湯沸器一台に対し、複数の『まぜまぜ』を取り付けることはできません。）

3 標高の高い場所でお使いになる場合、沸騰点が下がります。事前に弊社にお問い合わせいただくか、下記の数値を参考に設定温度を変更してください。
※ 標高 800m ～ 1,000m の場合…95℃　1,000m ～ 2,000m の場合… 90℃

4 水検知を電極で行っていますので、純水もしくは純度の高い水では使用できません。
硬度の高い水は電極にスケールが付きやすくなりますので、定期的なメンテナンスが必要です。メンテナンスについては弊社フロント課、または最寄りの営業所もしくは地区販売会社までお気軽にお問い合わせください。

5 オーバーフロー（排水）管をふさがないでください。
湯気が本体と蓋のすき間から吹き出し、湯沸器付近の壁や天井に影響を及ぼす原因となります。

6 この取扱説明書に記載の製品は、運転を開始すると工場出荷時にセットされている「おすすめプログラム」の内容で運転を開始します。（運転内容は下表参照。）

プログラムの変更は液晶パネルの表示を見ながら行うことが可能です。

なお、SB型とBT型は初めてお使いになるときの操作手順が異なります。各タイプ別の操作手順をご覧く

詳細な運転、操作方法については･･･
当冊子では基本的な運転方法をご紹介しています。詳細な運転、操作方法については、製品に別途付属の給湯コントローラー取扱説明書をご参照ください。

		タイマー 1	タイマー 2
設　定　湯　温		99℃	
運転時間	開始時刻	6時 30分	6時 30分
	終了時刻	18時 30分	12時 30分
運　転　曜　日		月～金	設定なし
自動給排水日（C タイプのみ）		月（運転開始の2時間前）	

■ SB型運転方法

1. 止水栓を開ける ※この時点ではまだ給水されません。

2. 電源を入れる

湯沸器専用の漏電ブレーカを入れてください。プラグがある場合はコンセントを差してから、電源を投入してください。

警告 **運転時、プラグはコンセントに確実に差し込み、湯沸器専用の漏電ブレーカは確実に押し上げてください。**火災のおそれがあります。**濡れた手で電源の操作を行わないでください。**感電のおそれがあります。

3. 自動運転を開始する

☼は点灯表示を示しています。

運転スイッチを1回押すと、「ピッ」という操作音とともに自動運転を開始します。給水が始まり、液晶表示が〈A図〉の表示になります。
その後、液晶パネルの現在温度表示が〈B図〉のように設定温度になったら沸かし上げ完了です。
注：SB型は湯槽内を90℃以上に保ちながら段階的に沸して水位を上げるため、すぐに満水にはなりません。
（沸き上がり時間はP.5〜6仕様表参照）

〈A図〉

〈B図〉

ワンポイントP
自動運転を開始したと同時にブザーが断続的に鳴りますが、故障ではありません。
3〜5分間で給水中表示の点滅が通常画面に切り替わります。通常画面に切り替わるとブザーは鳴り止みます。

BT型運転方法

1. 止水栓を開けて通水を確認する

止水栓と混合水栓の湯側を全開にして、混合水栓から水が出るまで湯槽内に給水します。
混合水栓から水が出たら、混合水栓を閉めて湯沸器本体や配管部からの漏水がないか確認してください。

ワンポイント P
湯槽内に給水されない場合、上蓋を開け、ボールタップのフロート固定板が入っていたら外してください。

2. 電源を入れる

湯沸器専用の漏電ブレーカを入れてください。プラグがある場合はコンセントに差してから、電源を投入してください。

警告
運転時、プラグはコンセントに確実に差し込み、湯沸器専用の漏電ブレーカは確実に押し上げてください。火災のおそれがあります。**濡れた手で電源の操作を行わないでください。**感電のおそれがあります。

3. 自動運転を開始する

は点灯表示を示しています。

運転スイッチを1回押すと、「ピッ」という操作音とともに自動運転を開始します。
その後、操作パネルの温度表示が設定温度になったら沸かし上げ完了です。

⚠警告

給湯中とその直後は高温になっていますので、配管部分、給湯蛇口、排水管に直接触れないでください。
やけどのおそれがあります。

⚠注意

湯沸器本体および配管に乗ったり体重を掛けたり物を載せたりしないでください。
落ちてケガをしたり、漏水、故障の原因となります。

水道水以外は使用しないでください。
井戸水などを使用すると腐食などにより漏水するおそれがあります。

水道水に添加物を混ぜないでください。
健康を害したり、漏電、漏水、故障の原因となります。

貯湯温度が 80℃未満の場合は、やかんなどで沸かしてからお飲みください。
健康を害するおそれがあります。

■ 出湯する

1. 沸き上がりの確認をする

給湯コントローラーで設定温度まで沸き上がっていることを確認します。

2. 『まぜまぜ』を操作して出湯する

洗い物用の混合湯を出す
熱くする：ハンドルを上げて左へ回す。
ぬるくする：ハンドルを上げて右へ回す。

ハンドルを上げる高さで出湯量が変わります。

飲料用の熱湯を出す※
熱湯用ハンドルを下へ回す。

※混合水栓のみのタイプは除く。

ワンポイント P

混合湯の湯温や出湯量を調整したい場合は、『まぜまぜ』(MZ-N3)の工事要領・取扱説明書をご参照ください。(左図はMZ-3N3)

ワンポイント P

混合湯、熱湯を同時に出す場合

混合水栓、熱湯栓両方からお湯が出ますが、共に出湯量は少なくなります。

⚠警告

❗	**排水時は必ず本体の電源を切ってから行ってください。** 感電のおそれがあります。
🚫	**濡れた手で電源の操作を行わないでください。** 感電のおそれがあります。
🚫	**設置、メンテナンス時以外は本体蓋を開けないでください。** 感電、やけどのおそれがあります。
	排水時には熱湯が出ることがありますので、お湯に触れないでください。 やけどのおそれがあります。

⚠注意

❗	**長期間使用しない場合は湯槽の水を抜いてください。** 凍結して湯槽が破損したり、水質が悪化するおそれがあります。

■ 長期間使用しないときは（排水の方法）

湯沸器を長期間使用しない場合には、以下の方法で湯槽内のお湯を抜いてください。

1. 自動運転を解除する

運転スイッチを3秒以上押すと、「ピピピッ」という操作音とともに自動運転が解除されます。

2. 電源をOFFにする

湯沸器専用の漏電ブレーカーをOFFにしてください。プラグがある場合は、コンセントから抜いてください。

3. 湯槽内のお湯を水にします

湯槽内のお湯が水になるまで流し続けます。（**必ず水と混合して流してください。**熱湯を流し続けると流し台を傷める原因になります）

※SB型は湯槽内下部に熱湯が残っていますので、十分に冷ましてから排水してください。

4. 止水栓を閉めて排水します

止水栓を閉めた後、上蓋を開けてオーバーフロー管をねじりながら取り外すと排水口から排水が始まります。排水が終わったらオーバーフロー管を元に戻し、蓋を閉めてください。

お手入れの方法

■ 日常のお手入れ

外観の清掃

水に浸して固く絞った布で拭いてください。汚れがひどいときは適量に薄めた中性洗剤に浸して固く絞った布で拭いてください。薬品やクレンザーなどを使用しないでください。

湯槽内の清掃

定期的に湯槽内部を点検し、水アカを除去してください。保証期間内であっても水アカによる不具合は保証対象外です。清掃・点検は弊社フロント課、または最寄りの営業所もしくは地区販売会社にご依頼ください。

給水配管ストレーナーの清掃

定期的に給水配管ストレーナーの清掃が必要です。管理技術者の方にご依頼ください。

消耗品の交換

ボールタップ・弁ゴム・逆止弁・パッキンは消耗品です。定期的に交換してください。弊社フロント課、または最寄りの営業所もしくは地区販売会社にてお求めください。

■ 保守点検項目と実施の目安

点検するときはやけどや感電にご注意ください。
ご不明な点や不具合が見つかった場合は直ちに運転を中止し、弊社フロント課、または最寄りの営業所もしくは地区販売会社までご連絡ください。

点　検　項　目	点　検　内　容	実施の目安
管理技術者の方のみ 電圧の測定	定格電圧の±10%の範囲で使用されていることを確認してください。過電圧はコントローラー故障の原因になります。	一回／月
管理技術者の方のみ 電流値の測定	定格電流の±10%の範囲で使用されていることを確認してください。使用開始時と再使用時には特にご注意ください。	
管理技術者の方のみ ヒーター絶縁抵抗測定	絶縁抵抗計（500V メガー）にて測定し 1M Ω以上ある事を確認してください。 **※破損するので操作回路には絶縁抵抗測定をしないでください。**	
ボールタップの作動点検（BT型のみ）	給水が正常に行われていること、水位が正常に保たれていること、オーバーフローしていないことなどを確認してください。	
コードおよび接続部の点検	コードが熱を持っていたり、損傷していないこと。また接続部の締め付けにゆるみのないことを確認してください。とくに締め付けがゆるいと焼損の原因となりますのでご注意ください。	
漏水全般についての点検	本体および各配管接続部からの漏水のないことを確認してください。	一回／日
湯槽内部の清掃	最低、年に一回以上は槽内およびヒーターの表面の湯アカ等をナイロンスポンジ（タワシ）などで清掃してください。（槽内にはセンサーなどの突起物が出ていますので折ったり破損しないように、またケガのないようにご注意ください。）	適宜
給水一次側フィルタの清掃	フィルタ内にゴミが詰まると湯沸器の性能に影響しますので最低、年に一回以上は止水栓を閉めてフィルタ内のゴミを除去してください。	

※消耗品については、P.18「アフターサービス」をご参照ください。

故障と思われる前に

故障かな？と思っても実際には製品の故障でないことがありますので、修理を依頼される前に次の表を参考にしてチェックしてください。

点検するときはやけどや感電にご注意ください。
ご不明な点や不具合が見つかった場合は直ちに運転を中止し、弊社フロント課、または最寄りの営業所もしくは地区販売会社までご連絡ください。

ブザーを止めるには

ブザーが鳴った場合には運転スイッチを押してください。
※湯切れ時のブザーは給水が終わるまで止まりません。

状　況	チェックポイント	処　理　方　法
運転スイッチを押しても何も点灯しない。	漏電ブレーカがOFFになっていませんか?	ONにしてください。
	電源プラグがコンセントに差し込まれていますか?	確実に差し込んでください。
	電圧は正常ですか?	100Vの製品に200Vを接続するとコントローラーが破壊され一切表示しません。弊社フロント課、または最寄りの営業所もしくは地区販売会社までご連絡ください。
湯温が上がらない。（湯が沸かない）	自動運転、臨時運転のどちらのランプも消灯していませんか?	どちらかのスイッチを押してください。
	電圧が誤っていませんか？	200Vの湯沸器を100Vで使用することはできません。
湯温がぬるい。（沸き上がりが遅い）	BT型のみ 湯を大量に使用した直後ではありませんか？	BT型は湯を使った分だけ給水されますので、すぐには沸かし上がりません。温度表示をご確認ください。
	配管距離が長くありませんか？	配管距離が長い場合、冷水が配管に溜まっていますので、しばらく流してからご使用ください。必要に応じて管理技術者の方に保温工事をご依頼ください。
湯の出方が悪い。	毎分３～４㍑位ですか？	大気開放型（落差給湯方式）のため、流量を増やすことはできません。
	給湯蛇口は弊社の『まぜまぜ』（型式：MZ-N3）シリーズをお使いですか？	給湯圧力が低いため、市販の蛇口ではお湯の出が悪くなる場合があります。『まぜまぜ』シリーズをお使いください。（→ P.20参照）
	止水栓は全開になっていますか？	全開にしないと十分な流量が出ません。
	立ち上げ水栓ですか？	立ち上げ水栓の場合は下に長く配管すると抵抗が大きくなり、エアーも溜まりやすくなるので湯の出方が悪くなります。必要に応じて管理技術者の方に配管の見直しをご相談ください。
	給水口接続部のフィルタにゴミが詰まっていませんか？	止水栓を閉めてフィルタの清掃をしてください。
給水時、湯沸器本体および配管に振動音がする。	給水圧が高くありませんか？	給水圧（0.3MPa以上）が高いと振動音「ウォーターハンマー現象」が起きる場合があります。弊社の減圧弁「いちじく」のご使用をおすすめします。（→ P.19参照）弊社フロント課、または最寄りの営業所もしくは地区販売会社までお問い合わせください。
	給水管に長いフレキ管を使用していませんか？ 配管支持がされていますか？	配管を固定されていないと振動音が出ることがありますのでしっかり固定してください。

状　況	点　検　事　項	処　理　方　法
給湯蛇口を閉めても湯が止まらない	蛇口のパッキンが古くなっていませんか？	パッキンの交換を行ってください。弊社フロント課、または最寄りの営業所もしくは地区販売会社までご連絡ください。
湯が臭い 湯が汚れている	設置直後ではありませんか？	設置直後などは配管工事の際の切削油等が流入する事がありますので、そのときは湯槽内の湯を数回入れ替えて洗浄してください。
漏水している	オーバーフロー管からですか？	**BT型のみ** オーバーフロー管から漏水している場合、ボールタップ（自動給水器）の弁ゴムの交換、もしくは給水圧力の調整が必要となります。弊社フロント課、または最寄りの営業所もしくは地区販売会社までご連絡ください。
		SB型のみ ご使用中の場合は運転を止めて湯槽内のお湯を十分に冷ましてください。十分に冷ました状態で上蓋を開け、上部水位センサーをナイロンタワシなどで清掃してください。（清掃の際はセンサーを破損しないようにご注意ください。） 清掃を行っても漏水が改善されない場合は、弊社フロント課、または最寄りの営業所もしくは地区販売会社までご連絡ください。
	配管接続部からですか？	配管接続部を締め直してください。

その他の不具合およびエラーメッセージについて

その他の不具合および給湯コントローラーに表示されているエラーメッセージついては、製品に別途付属の給湯コントローラー取扱説明書をご参照ください。

給湯コントローラー取扱説明書

アフターサービス

消耗品について

下記に記載の部品は定期的に交換が必要な消耗品です。劣化による動作不良や漏水を防止するため定期的に交換してください。（下表参照）交換（有償）・購入のご依頼は弊社フロント課、または最寄りの営業所もしくは地区販売会社にご依頼ください。

型式	部品名	交換時期の目安	交換いただく理由
共通	上蓋パッキン類	設置、交換日より 2～5年	長期間ご使用いただくことにより、経年劣化やスケール※による動作不良や漏水を起こす可能性があります。漏水が起きた場合大きな被害を与えることがありますので、交換することによりそれらを防止します。（※水道水中のミネラル分が固着したもの。）
	ヒーター		
BT型	弁ゴム		
	ボールタップ フロート		
SB型	自動給水弁		
	逆止弁		

※上記以外でもパッキン類や電気部品交換が必要になる場合があります。使用頻度・環境によっては交換時期が早まる場合があります。

補修用性能部品にについて

本製品の補修用性能部品の保有期間は製造打ち切り後７年です。

修理をご依頼の際には

修理をご依頼される時は、下の故障状況シートのコピーに必要事項をご記入いただき、FAX にてご送付ください。FAX をお使いになられていない場合は記入事項をお電話にてご連絡ください。
型番等は本体に貼られている保証票に印刷されていますので、故障状況シートへ転記してください。

(株) 日本イトミック フロント課　FAX 03-3621-2163
TEL 03-3621-2161
※または最寄りの営業所もしくは地区販売会社へご連絡ください。

故障状況シート

貴社名		ご担当者	
住所			
TEL		FAX	
型番			
電源・電力		製造番号	
設置場所		保証期限	

状態・エラー表示等

お困りの時

■ 施工前にご確認ください

		EW-N3	EW-N4	ET-N4B-BT
湯沸器および付属品	湯沸器本体	 図はEW-N3B-SB	 図はEW-N4B-SB	 図はET-N4B-BT-M（左側面蛇口：JL）
	付属品	1/2B給湯フレキ管（L=120）× 1 1/2B給水フレキ管（L=200）× 1 （※ EW-N3C-BTの場合のみ L=150） 3/4B排水フレキ管（L=120）× 1 止水栓× 1 本体取付板× 1 工事要領・取扱説明書（当冊子※） 給湯コントローラー取扱説明書（※）	1/2B給湯フレキ管（L=120）× 1 3/4B排水フレキ管（L=120）× 1 本体取付板× 1 ローレットねじ× 2 工事要領・取扱説明書（当冊子※） 給湯コントローラー取扱説明書（※）	自在水栓×1 固定金具× 1 3/4B排水用フレキ管(L=400）×1 工事要領・取扱説明書（当冊子※） 給湯コントローラー取扱説明書（※）
★お客様手配品	型式で異なるもの	①漏電ブレーカ ②水栓 ⑤取付部材	①漏電ブレーカ ②水栓 ③止水栓 ④給水管 ⑤取付部材	①漏電ブレーカ ③止水栓 ④給水管

関連商品

全型式共通

パチン錠・ターンキャッチ

本体と上蓋をロックすることで、外部からの異物混入を防止します。

パチン錠　ターンキャッチ

一軸型減圧弁 いちじく

わずか4.4cmの小型減圧弁。ウォーターハンマー防止、ボールタップの止水能力アップに効果的です。

※給水圧が0.3MPaを超える場合は、必ずお取り付けください。（最高使用圧力：0.75MPa）

型式で異なるもの

オーバーフローパイプ FOP
（EW-N3/N4の埋込み配管用）

EW-N3およびEW-N4の配管を埋込み配管にする場合のオーバーフロー処理用にお使いください。

配管カバー（EWシリーズ用）

埋め込み配管の現場で配管を外部に見せたくない場合、本体下部に装着して配管を隠します。

EW-N3用 取り付け方　EW-N4用

本体取付板アダプター
（EW-N3用）

EW-N3をふかし壁に取り付ける際にお使いください。（→ P.22参照）

ステンレスフレキ管

給水、給湯、排水管にご使用ください。お客様のご都合により長さ指定が可能です。

止水栓（EW-N4用）

給水配管中に止水栓が必要です。

※取扱説明書について

工事要領と基本的な使用方法を記載した当冊子の他、製品に組み込みの給湯コントローラー取扱説明書が付属します。

当冊子　＋　給湯コントローラー取扱説明書

★お客様手配品について

工事の際に必要となりますので、必ずお客様にてご手配ください。

①漏電ブレーカ　・・・・・万一の故障や漏電した際の事故を防止します。(30mA・0.1秒)

②水栓・・・・・・・・・・・・EWおよびETシリーズは大気開放型のため、給湯圧力がありません。水栓が付属していないEWシリーズでお湯と水のスムーズな混合および給湯を行うためには、専用設計の弊社『まぜまぜ』シリーズが必要です。また給湯のみ使用する場合は、専用熱湯栓 NT-1が必要です。

ご注意：『まぜまぜ』ご使用の際には、アームは必ず純正付属品をお使いください。他社製アームは逆流の原因となります。下記「混合水栓について」参照。

③止水栓　・・・・・・・・・・排水やメンテナンス時に給水を止めるため必要です。

④給水管　・・・・・・・・・・湯沸器へ給水するために必要です。

⑤取付部材・・・・・・・・・取り付け壁面に合わせて部材をご用意ください。(→ P.21 参照)

重要：混合水栓について

開放型のEWシリーズの給湯圧力は落差分だけのため、通常の水道のような水圧はありません。そのため一般の混合水栓では十分ミキシングができませんので、**必ず熱湯口付混合水栓『まぜまぜ』シリーズ(型式：MZ-N3)をご用意ください。**

アーム(※右図参照)は『まぜまぜ』純正付属品をご使用ください。他社製アームは逆流の原因となります。

混合水栓をご使用されるときには、給水源が「タンク以下」であることをご確認ください。

まぜまぜ(MZ-N3)シリーズラインナップ

MZ-1N3
熱湯口あり、埋込み配管型
MZ-4N3
混合水栓、埋込み配管型

MZ-2N3（EW-N3専用）
熱湯口あり、露出配管型
MZ-5N3（EW-N3専用）
混合水栓、露出配管型

MZ-3N3
熱湯口あり、立ち上がり配管型
MZ-6N3
混合水栓、立ち上がり配管型

MZ-7N3
熱湯口あり、埋込み／露出配管型

MZ-8N3（EW-N4専用）
熱湯口あり、露出配管型

MZ-9N3（EW-N4専用）
熱湯口あり、露出配管型

■ 湯沸器の取り付け

⚠警告

	屋外に設置しないでください。 感電や故障の原因となります。
	本体近くにガス類や引火物を近づけたり保管しないでください。 発火のおそれがあります。
	湿気の多い場所や浴室には設置・使用しないでください。 水が掛かったり結露が生じる場所で使用すると故障や感電のおそれがあります。

⚠注意

	EW シリーズ：本体は湯沸器の満水質量に耐えられる十分な強度を持つ壁面に必ず垂直に設置してください。 落下の原因となります。
	ET シリーズ：本体は湯沸器の満水質量に耐えられる十分な強度を持つ調理台などに必ず水平に設置してください。 故障・漏水の原因となります。
	ET シリーズ：固定金具は湯沸器の満水質量に耐えられる十分な強度を持つ壁面に必ず垂直に設置してください。 転倒の原因となります。

【設置場所についての注意事項】

(1) 本体を取り付ける際には壁面が垂直であること、湯沸器の満水質量に対し十分な強度があることを確認してください。

(2) 熱湯吐水口よりも20cm以上(熱湯吐水口の無い水栓は混合湯吐水口より30cm以上)、高い位置に設置してください。

(3) メンテナンススペースとして設置場所上部に30cm以上あることを確認してください。

EW-N3/N4 および ET-N4 型の離隔距離について

この湯沸器は「消防法設置基準」に基づく試験基準に適合しております。建築物の可燃物等からの離隔距離は表に掲げる値以上の距離を保ってください。(※ただし実際の取り付けの際には必ずメンテナンススペースをお取りください。)

消防法 基準適合 組込形

場所	上方	左方	右方	前方	後方	下方
離隔距離(cm)	0	0	0	0	0	0

壁掛型手順	1. 壁面に本体取付板を下記の要領で取り付ける。 2. 本体取付板の引っ掛けツメを湯沸器裏側にある取付穴に引っ掛けて取り付ける。

<コンクリート壁取付例>※ AY ボルト取付例

<ふかし壁取付例>※図は EW-N4 の場合

補強金具・補強板・ボルトナットをご用意いただき、図のように裏補強を行ってから湯沸器を取り付ける。

補強板・コンクリートスタッドボルトをご用意いただき、スタッドボルトをコンクリート壁に打ち込んで湯沸器を取り付ける。

■ EW-N3 型

＜ふかし壁取付例＞

A寸法 EW-20<23>N3 = 404
EW-30<33>N3 = 537
EW-40<43>N3 = 670

※上記以外の取付寸法は左図を参照してください。

■ EW-N4 型

取付板のローレットねじ(2本)を取り外してから、本体を壁面に設置した取付板に引っ掛けます。
本体を取付板に引っ掛けたら本体と取付板をローレットねじで固定します。

A寸法 EW-12<14>N4 = 156
EW-20<22>N4 = 216
EW-30<32>N4 = 290
EW-45<48>N4 = 255
EW-65<68>N4 = 342

( ) 内は EW-45 ～ 68N4

■ ET-N4B 型

置台型手順	1. 湯沸器の設置場所が水平で、満水質量に十分耐えられる場所か確認してください。 2. 本体を設置し、アジャスターを使用し水平にしてください。 3. 付属品の固定金具を使用して、本体を固定してください。

■ 配管工事

⚠注意

⃠	**湯沸器本体および配管に乗ったり体重を掛けたり物を載せたりしないでください。** 落ちてケガをしたり、漏水や故障の原因となります。
	水道水以外は使用しないでください。 井戸水などを使用すると腐食などにより漏水するおそれがあります。
	水道水に添加物を混ぜないでください。 健康を害したり、漏電、漏水、故障の原因となります。
!	**給湯、給水接続配管はステンレスもしくは銅製の材質を使用してください。** 漏水の原因となります。
	BT 型：満水にしてから通電してください。 故障の原因となります。
	規定の給水圧力にてご使用ください。給水圧が高い場合は必ず減圧弁を取り付けてください。 誤動作や故障の原因となります。
	水の凍結が予想される所では凍結防止処置を施してください。 タンクや配管が破損してやけどをするおそれがあります。

【配管工事についての注意事項】

(1) 全ての配管は湯沸器がいつでも着脱できるように必ずお客様手配品のフレキ管を使用して取り外し可能な状態にしてください。また給水一次側には必ず止水栓を設けてください。(止水栓はEW-N3では付属品、EW-N4およびET-N4ではお客様手配品)

(2) 給湯・給水配管はステンレスもしくは銅製の材質を使用し、排水配管は耐熱性のものを使用してください。

(3) 給水圧力が0.3MPaを超える場合には、必ず一次側に減圧弁を取り付けてください。(関連商品の『いちじく』をご発注いただくか、別途お客様にてご手配ください。)

(4) 給水管に30cm以上フレキ管を使用する場合は必ず壁に固定してください。固定しないとウォーターハンマー現象が起きる場合があります。

(5) 給湯配管の横引き距離は落差距離の3倍までとしてください。水栓はまぜまぜ(MZ-N3シリーズ)もしくは湯水の出がよい吊り駒式のものを使用してください。

(6) 給湯圧力は落差分しかありません。立ち上がり配管の場合は右図 ※部の立ち上がり距離を短くしてください。また、配管内に空気溜りがあるとお湯が出ませんので、空気抜きを行ってください。

(6) 立ち上がり配管の場合

※できるだけ短くする

(7) 排水管に直接排水を行う配管接続にすると、クロスコネクションになるだけでなく排水時の熱湯による熱影響によって配管各接続部より漏水を起こす原因となりますので、排水はシンク(流し)に排水するように配管施工してください。

EWシリーズを取り付ける現場が埋め込み配管の場合は関連商品の壁面取付用オーバーフローパイプ FOP (→ P.19参照)をお使いいただくと、簡単に施工できます。

また、排水管の施工を行う際には、必ず下り勾配にするとともに、絶対にバルブは設けないでください。(右図参照) 万一オーバーフロー(排水)管が塞がれた場合、湯気が水として溜まるため、湯気が出にくくなります。

(8) 排水管の先は必ず排水口空間を確保し、間接排水としてください。

(7) 排水管の下り勾配配管図

下り勾配で正しく配管されていれば湯気がオーバーフロー管から排出される。

下り勾配で配管されていないと、湯気が水として溜まり、出にくくなります。

■ EW-N4型配管例

配管セット（給湯、排水フレキ管）は標準付属品です。
A：1/2B 給湯フレキ管（L=120）
B：3/4B 排水フレキ管（L=120）
C：1/2B 給水フレキ管（L=100）（関連商品）
D：止水栓（関連商品）
E：キャプタイヤコード 0.7m

F：寸法　55（12 ～ 32N4）
　　100（45 ～ 68N4）

■ EW-N3型配管例

止水栓 / 配管セット（給湯、給水、排水フレキ管）は標準付属品です。
1/2B 給湯フレキ管（L=120）
1/2B 給水フレキ管（L=200）（※EW-N3C-BT の場合のみ L=150）
3/4B 排水フレキ管（L=120）

■ ET-N4型

EW型 排水処理例

ET型 排水処理例

■ 電気工事

⚠警告

⏚	**アース（D種接地）工事を確認してください。** アース工事がされないと故障や漏電発生時に感電するおそれがあります。
❗	**電圧は定格電圧の± 10%以内でお使いください。** **火災の原因となります。**
	必ず電源一次側に漏電ブレーカを取り付け、動作を確認してください。 万一の故障等による漏電発生時に感電・火災のおそれがあります。
🛠	**絶対に改造はしないでください。** 火災・感電・やけどやケガの原因となります。

■ EW-N3型

EW-N3 型は意匠面を考慮し、電源コードおよびプラグを付属していません。従って右図のようにアウトレット・ボックス等を設けていただき、そこから湯沸器内の端子台までの接続工事を行ってください。（オプション仕様の電源コード・プラグ付の場合は除く）
また、緊急時の遮断用として手の届く位置に手元盤（ELB）を設けてください。

◆引込電線表（内線規定による）

ヒーター容量	標準電源	
	単相 100V	単相 200V
1.5kW	2mm²	0.75mm²
2.0kW	3.5mm²	1.25mm²
3.0kW	8.0mm²	2.0mm²

■ EW-N3型以外

漏電ブレーカを ON にしてください。電源プラグがある場合はコンセントにしっかり差し込んでから、電源を投入してください。（200V の場合は、右図のように差し込んでから右に回して、しっかり接続されたか確認してください。）

確認事項

工事終了後は下記の事項を必ずご確認ください

Check □	1. 供給電圧の確認	定格電圧の±10%以内でご使用ください。過電圧の場合、ヒーターの寿命が著しく短くなり電子部品が破損する場合があります。（通常ヒーターの寿命は使用頻度や水質、保守などにより異なります。）低電圧の場合、機器の運転ができなくなります。 メモ：電圧の測定はテスターでコンセントに通電している電圧を測ってください。（測定後、コンセントにプラグをしっかり差し込んでください。） ⚠注意：アース付きコンセントの場合には接地極に電圧はかかりません。
Check □	2. 取り付け状態および強度の確認	取り付け状態・壁の強度を確認してください。
Check □	3. フロート固定板の取り外しの確認（BT型のみ）	上蓋を開け、湯槽内のフロート固定板を必ず取り外してください。（フロート固定板）
Check □	4. 通水の確認（BT型のみ）	止水栓を開き、湯槽内に給水してください。この時、混合水栓を開き配管内のゴミなどが流れるように10分ほど出し続けてください。もし湯槽内に沈殿物などがある場合にはオーバーフロー管を外して排水し、沈殿物を取り除いてください。（オーバーフロー管は左に回して外してください。）混合水栓を開いても水が吐出しない場合は水位が低すぎるためです。水位は給水圧力により変わりますので、この場合はフロートのアームを曲げてフロートが若干上になるようにしてください。水位が正常でも蛇口が吊り駒式でないと正常に吐出しませんのでご注意ください。 ボールタップ（自動給水器） 給水 オーバーフロー管 Oリング
Check □	5. ボールタップ部の動作確認（BT型のみ）	自動給水装置ですので、使用した湯量分の水を自動的に補給します。（1リットル出湯すれば1リットル給水されます。）万一、オーバーフローしていると「湯が沸かない」などのクレームとなりますのでご注意ください。また、補給水が不足すると給湯時、湯面が下がって混合水栓を開いても給湯することができません。従って、常に正常に作動していることを確認する必要があります。
Check □	6. 給水配管ストレーナーの詰まりの確認	給水配管ストレーナーにゴミが詰まっていないか確認してください。
Check □	7. 配管および接続部の確認	各配管および接続部を確認し、漏水がないか確認してください。 プラグをコンセントにしっかり差し込んでください。 また、排水管の先に排水口空間が確保されているか確認してください。

MEMO

MEMO

MEMO

無料修理規定

本規定は、保証票に記載された製品につき、納入から1年の間に故障が発生した場合、下記記載内容に基づいて無料修理を行うことをお約束するものです。保証票に記載された製造番号をご提示の上、弊社フロント課、または最寄りの営業所もしくは地区販売会社にご依頼ください。

1. 取扱説明書・製品本体貼付ラベルなどの注意書に従った正常な使用状態で、保証期間内に故障が発生した場合には無料修理いたします。
2. 保証期間内に故障して無料修理を受ける場合は、弊社フロント課、または最寄りの営業所もしくは地区販売会社にご依頼の上、修理に際して保証票に記載された製造番号をご提示ください。なお、遠隔地（離島および離島に準ずる遠隔地）への出張修理を行った場合には、出張に要する実費を申し受けます。
3. ご転居の場合は、事前に弊社フロント課、または最寄りの営業所もしくは地区販売会社にご相談ください。
4. 補償範囲は機能部とその付属品のみで、配管類は含みません。
5. 保証期間内でも次の場合は保証の対象とならず、有料修理となります。
   （１）お客様が取扱説明書・本体貼付ラベル等に記載された手順・注意を守らなかったことによる不具合や、部品・湯槽内の清掃など日常のお手入れを行わなかったことによる不具合※1
   （２）Oリング・パッキン類の摩耗・劣化による不具合や、電池の消耗による不具合
   （３）工事要領に指示する方法に基づかない施工や工事設計による不具合※2
   （４）輸送・搬入・移動の際の落下・転倒・接触等による不具合
   （５）専門業者以外による移動・分解・修理・改造などによる不具合
   （６）指定規格以外の電気（電圧・周波数など）の使用や電力契約の間違いによる不具合
   （７）温泉水・井戸水など水道水以外の水を給水したことによる不具合
   （８）設備側の排水不良等による冠水により生じた不具合
   （９）電気・給水の供給トラブル等による不具合
   （10）配管の錆・砂・ゴミ等異物の流入による不具合
   （11）建築躯体の変化などに起因する不具合や、塗装の色あせなどの経年変化またはご使用に伴う摩耗等による外観上の不具合
   （12）火災、爆発等の事故、地震・津波・噴火・風水害・雷などの天災や地変、煤煙、降灰、酸性雨、凍結、海岸付近や温泉地等の地域における腐食性の空気環境、ほこり、異常電圧、異常電磁波、ねずみ・鳥・昆虫などの動物の行為、または戦争・暴動など破壊行為による不具合
   （13）保証票の提示が無い場合
6. 無料修理により交換された部品や製品は（株）日本イトミックの所有となります。
7. 製品の保証は日本国内におけるご使用の場合のみ有効です。

※1：日常のお手入れとはお客様ご自身で行えるもののほかに、設備業者や管理技術者に依頼が必要なものがございます。製品や部品によってお手入れ方法や時期が大きく異なりますので、取扱説明書やラベル等を必ずご確認いただくとともに、不明点は弊社フロント課、または最寄りの営業所もしくは地区販売会社にご相談ください。

※2：製品によって施工方法や注意事項が大きく異なりますので、施工時には工事要領を必ずご確認いただくとともに、不明点は弊社フロント課、または最寄りの営業所もしくは地区販売会社にご相談ください。

■お客様へ

1. 製品をお受け取りになる際は、製造番号が記載されている保証票が貼り付けられていることを確認してください。
2. 保証票の再発行はいたしません。
3. 機器が正しく運転しない場合や不調な場合は、修理ご依頼の前に「こんなときは」の項をご覧ください。
4. 無料修理期間経過後の故障・修理等につきましては、「アフターサービス」の項をご覧いただくか、弊社フロント課、または最寄りの営業所もしくは地区販売会社までお問い合わせください。
5. 保証票によって、保証票を発行している者（保証責任者）およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

株式会社日本イトミック

本社・営業本部 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **TEL：03（3621）2121（代）**
FAX：03（3621）2130
〒130-0002　東京都墨田区業平5-11-3（イトミックビル）
ホームページ　http://www.itomic.co.jp/

《修理に関するお問い合わせ》

ご連絡の際には使用製品の型番・製造番号等の情報をご用意ください。

一般電話・公衆電話の場合（市内通話料金でご利用可能です）

市内通話料でOK ナビダイヤル®

0570-011039

【ナビダイヤルに関するご注意】

※ナビダイヤルは通話料のみでご利用できます。
※電話窓口が混雑している場合、アナウンスが流れた後、話中の音が流れる場合があります。　その場合には、時間をおいて再度おかけ直しください。
※ＰＨＳ、ＩＰ電話からはご利用になれません。その場合には関東地区のお客様はフロント課、中部・近畿地区のお客様は西日本修理受付センター、その他の地域のお客様は最寄りの営業所もしくは地区販売会社まで直接お電話ください。

フロント課 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **TEL：03（3621）2161（代）**
FAX：03（3621）2163

西日本修理受付センター ・・・・・・・・・・・・・・・ **TEL：052（228）0824**

《保守契約に関するご相談》

弊社製品を永くお使いいただくためにはメンテナンス契約が有効です。詳しくは下記の弊社リニューアル課までご連絡ください。
また、部品のご注文はフロント課で承っています。

リニューアル課 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **TEL：03（5860）4992（代）**
FAX：03（3621）2163

《担当エリアと営業所・地区販売会社》

北海道地区 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **TEL:011（615）6681（代）**
（株）北海道イトミック　**FAX：011（615）7004**
〒063-0801　北海道札幌市西区二十四軒１条5-1-10（ラポール24軒２号館）
担当エリア：北海道地区全域

東北・新潟地区 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **TEL:022（773）6161（代）**
（株）東北イトミック　**FAX：022（773）6213**
〒981-3125　宮城県仙台市泉区みずほ台4-3
担当エリア：青森県／岩手県／秋田県／山形県／宮城県／福島県／新潟県

関東地区 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **TEL:03（3621）2121（代）**
（株）日本イトミック　**FAX：03（3621）2130**
〒130-0002　東京都墨田区業平5-11-3（イトミックビル）
担当エリア：東京都／千葉県／埼玉県／茨城県／栃木県／群馬県／山梨県／神奈川県／静岡県

中部・北陸地区 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **TEL:052（222）2561（代）**
（株）日本イトミック　中部営業所　**FAX：052（222）2559**
〒460-0002　愛知県名古屋市中区丸の内1-4-12（アレックスビル3F）
担当エリア：富山県／石川県／福井県／岐阜県／愛知県／三重県／長野県

近畿地区 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **TEL:06（6226）0800（代）**
（株）日本イトミック　関西営業所　**FAX：06（6226）0802**
〒541-0048　大阪府大阪市中央区瓦町3-4-7（KCビル9F）
担当エリア：大阪府／京都府／滋賀県／和歌山県／奈良県／兵庫県

中国・四国地区 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **TEL:082（240）1361（代）**
（株）日本イトミック　中国営業所　**FAX：082（240）1363**
〒730-0051　広島県広島市中区大手町1-7-12（徳永ビル）
担当エリア：鳥取県／島根県／岡山県／広島県／山口県／香川県／徳島県／愛媛県／高知県

九州・沖縄地区 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **TEL:092（481）3911（代）**
（株）九州イトミック　**FAX：092（481）3930**
〒812-0007　福岡県福岡市博多区東比恵3-28-5
担当エリア：福岡県／佐賀県／長崎県／大分県／熊本県／宮崎県／鹿児島県／沖縄県

※本書に記載の内容は、製品の改良や仕様の変更などにより予告なく変更する場合がありますのでご了承ください。

K400D12001-6

VEGETABLE OIL INK　この印刷物は、再生紙と植物油インクを使用しています。

'13.03-4-1-3 ①